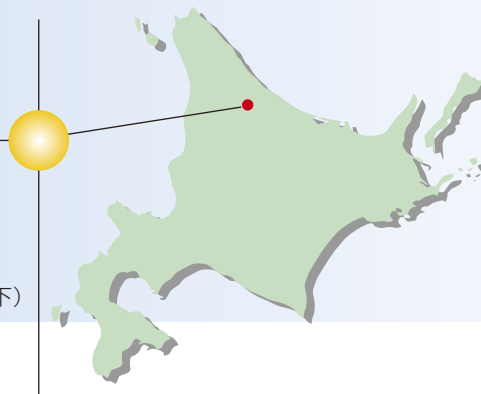


下川町

上川郡下川町
 面積：644.2km²
 人口：4581人（平成10年10月現在）
 町の木：トドマツ 町の花：エゾリンドウ
 町名の由来：アイヌ語でこの地を指したパンケ（下）
 ヌカナン（沢・川）を意訳
 ホームページ
<http://www.hokkai.or.jp/shimokawa/>



下川町

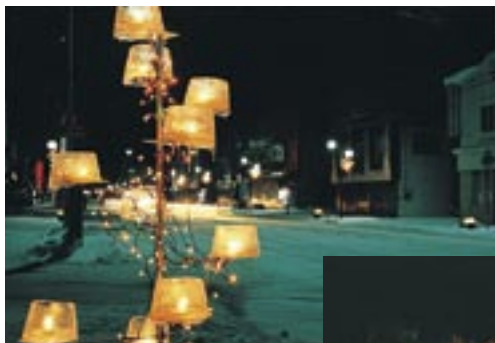
高沼 秀雄
 企画振興課長

アイスクャンドル発祥の地

ユニークな発想で町おこし

国道239号を名寄市から東に向かい、ほどなく下川町に入ると“暑い”という文字を逆さに描いた不思議な看板が設置されています。“暑い”の反対で“寒い”と読ませるもので、冬は-30℃にもなるこの地の寒さをユーモラスに表現したものです。スキージャンプ競技で活躍している岡部孝信・葛西紀明両選手もこの地の出身で、北海道内でも有数の厳しい寒さのなかで技を磨いたのです。

下川町は農林業と鉱業を基幹産業として発展し、昭和30年代を境に鉱山の廃止や営林署の統廃合、旧国鉄名寄線の廃止などが相次ぎ、現在人口はピーク時の1/3以下にまで減少しています。しかし“町は過疎でも心の過疎にはなるまい”の思いのもと、“暑い”の文字を逆さに描いた看板をはじめとしたユニークな発想を生かした地域振興策を推進しています。なかでも氷のランプ「アイスクャンドル」は、今や下川町ばかりか北海道の冬の風物詩として欠かすことのできない存在となっています。



街を彩るアイスクャンドル



厳しい寒さを逆手にとったイベント

冬の下川町の夜を琥珀色に彩るアイスクャンドルは、昭和60年に「コロンブスの卵」という町民主体のアイデア集団の“厳しい冬を楽しめるものにした”という熱い思いによって誕生しました。作り方は簡単です。しばれる夜にバケツに水を汲んで屋外に置き、縁の部分だけが凍った状態で中央の水を抜き、逆さまにしてろうソクを灯せば天然氷のランプができあがるのです。さっそく作り方を町民にアピールし制作を呼びかけたところ、火を灯した姿のあまりの美しさが反響を呼び、昭和63年には「アイスクャンドルフェスティバル」というイベントにまで発展しました。

今年度（平成11年2月開催予定）で11回目となるこのフェスティバルは、期間中メイン会場に3,000個のアイスクャンドルが設置されるばかりか、町内の一般家庭の庭先や道路沿いにもいくつものアイスクャンドルが並び、町全体が幻想的な雰囲気になります。また特製容器入りのアイスクャンドルを全国発送するサービスの受付や、関連グッズの販売も行われます。



幻想的な雰囲気のアイスキャンドルフェスティバル



桜ヶ丘公園と下川町市街



都市住民と下川町が共同で森林の育成をはかる「ふるさと2000年の森」



「万里の長城」とふるさと交流館

町づくりのシンボル、万里の長城

下川町の冬を代表するものがアイスクャンドルなら、町づくりのシンボルとして雪のない季節を代表するのが「万里の長城」です。町を一望にできる桜ヶ丘公園に遊歩道を整備する際に、ただお金をかけて造成するだけでは面白くないので、“下川町の開基100年にあたる西暦2000年に向けて、長さ2,000mの石の城壁をあえて手作りで築城し、町民参加型の観光資源に育てよう”ということになりました。折り良く国営農地造成事業でたくさんの山石が掘り出されていたので、捨てられる運命にあったこの石を再利用しています。毎月第3日曜日を「石積みの日」として、町民が中心となって石積み作業をするほか、毎年5月下旬には「万里の長城祭」を開き、春の到来と作業の再開を祝います。町外の方も現地を訪ねれば、積み上げた石に記念として自分の名前を刻めます。平成10年秋現在、延べ10万人以上の方が作業に加わり、幅3m、高さ3mのミニ万里の長城は約1,500mまで完成しています。

この外、下川町を全国にアピールするために、昭和

56年から年会費1万円で特別町民になることができる「ふるさと運動」を実施しています。会費相当の特産品を受け取ったり、町を訪れた際には宿泊費の割引や公共施設の開放などの特典があります。当初は全国790戸の下川さんや下河原さんを対象に募集しましたが、現在は誰でも応募できるようになり、350名ほどの特別町民がいます。

また、地場産業の育成策として、木材としては市場価値の低いカラマツの間伐材を利用して木炭生産を行っています。昭和57年に台車で原材を運び入れる大窯を6基備えた“木炭工場”を建設しました。製品は燃料用途での利用はごく一部で、多くは土壌改良材や河川浄化、融雪材として使用され、木炭の持つ浄化作用が注目されるなか年々生産規模を拡大しています。あわせて木炭の製造過程で発生する煙を冷却して作る木酢液の製品化も進め、土木資材の防腐処理や消臭剤、土壌浄化剤としての需要が伸びています。



「万里の長城」の石積み作業は、5月～10月の月曜日を除く毎日行っている（無料）。